

## 第3回ワークショップで出された主な意見

校区検討全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どのような学校教育を目指すのか」という教育理念に立脚した検討が重要である。（高根）</li> </ul>	
水平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ多くの子どもが集まる環境がよく、そのために目が届くだけの教員の配置・増員等も考えるべき。（明野）</li> <li>・地域に学校を残すこと（小学校）が重要である。（武川）</li> </ul>	
垂直	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高根の小学校の統合のタイミング的には配慮いただきたい。（高根）</li> <li>・部活動は大切であり、合同部活動についても通えなくなるような子どもが出ないように慎重に検討いただきたい。（長坂）</li> <li>・地域では垂直の意見が大勢を占めたが、他地域をみると水平が多く、この状況を知ることで、地域の意見が変わる可能性もある。答申後の検討をまたフィードバックしてもらいたい。（大泉）</li> <li>・武川小PTAアンケートでは垂直が多かったため、武川が垂直という選択肢も残しておくべきと考える。（武川）</li> </ul>	
（組み合わせ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校のメリットもあり海外ではそうした方向性の取組もある。選択肢として小規模校も残してもらえるとありがたい。（高根）</li> <li>・「地域に開かれた学校」という考え方にも配慮／大規模校についていきにくい児童への配慮も重要である。（高根）</li> </ul>	
今後の検討に向けて	市民への説明 ・意見集約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の意見をできるだけすくい取ってもらいたい（説明会、アンケート等）（武川）</li> <li>・実際に統合が実現する未来に当事者となる保育園の方々の意見もひろいあげてもらえるとありがたい。（須玉）</li> <li>・当事者年代の子どもを持つ保護者の意見を地域でまとめる機会があればありがたい（地域の意見をまとめる機会がなかった）（小淵沢）</li> <li>・地域に子どもがいることは地域全体に関係すること、子育て後の世代の住民の声も聞くことも考えてもらいたい（白州）</li> </ul>
学校の立地 ・通学方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を設置する具体的な場所、通学路についても検討に加えることが必要（武川）</li> <li>・地域名で組み合わせを検討すると、まとまりにくいのではないか。（白州）</li> <li>・通学時間 1 時間以内／10キロ以内くらいの配置が現実的かと思う。（武川）</li> <li>・ハザードマップを確認する必要がある（成立しない組み合わせがないか）。（武川）</li> </ul>	
新築・改修の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い学校を建設してもらいたい。（武川）</li> <li>・近年の学習環境の多機能化、複合化の動きも踏まえた施設の設計（オンライン学習など）を考えてもらいたい。（高根）</li> </ul>	
統合の順番	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明野・須玉では両地域を含む水平統合への要望が多く、合意がとれる地域でモデル的に統合を先行する可能性も検討いただきたい。（明野）</li> </ul>	
統合後のフォロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長坂小統合で先生も地域も大変だったのをみている。統合には負担もあり統合後に時間もかかることを踏まえること。（長坂）</li> </ul>	